

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	・オープン当初からの理念で、特に地域密着型サービスの理念を組み込んでいるわけではないが、地域の方にホームの存在を知っていただきたいという思いで活動している。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	・居間・休憩室に理念を掲示し、日頃から認識できるようにしている。 ・日常的に方向性がずれた時など修正しあえるよう話し合いをおこなっている。	○	・新人職員も入社し、日常の介護が理念に基づいて行われていることを理解した行動を心がけていく。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	・運営推進会議や地域活動の場などを通して理解が深まっていると思う。 ・町内会活動に参加するようになり、地域の理解も浸透している。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	・近所のごみの収集場所をホームで設置しており、ごみの日に出会ったり、散歩で会う時は挨拶を交わしている。 ・上のマンションの住人に避難訓練のお誘いをし、1名の参加があり、消火器を使った消火訓練を一緒におこなえた。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	・入居者が参加できるような行事には出席させていただいている。町内会の皆さんにも気にかけていただき、ありがたく感謝している。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	・現在特にない		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>・自己評価は各自の意見を出し合いまとめており、実施の意義を理解している。</p> <p>・外部評価の改善点は、年間計画に基づき改善策を講じている。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>・「ひやりはっと」「事故報告書」の実際を報告したり、意見をいただいている。</p> <p>・難しい事例などは会議のメンバーにもご意見いただき、参考にしている。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>・運営推進委員会以外、行き来する機会はないが、受け入れ困難な方のグループホームでの受け入れ態勢など問い合わせがある。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>・研修等で学ぶ機会を持っており、包括支援センターの方にお話を伺ったことがある。現在、対象となる方はいない。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>・声掛けや対応などの小さな事柄からエスカレートしていくものと考えているため、日常の対応と、入居者のちょっとした発言にも注意を払っている。</p>	<p>○</p> <p>・入居者が心地よく生活するためにはどのような声掛けが良いのか、他の職員との違いを考え、口から出た言葉を振り返っていく。今年度は、より入居者の尊厳を大切に言葉使いを勉強していく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>・利用者・ご家族の疑問や質問にはお答えし、不安が残らないようには努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・日常的な不満・苦情は各々の職員がお聞きしている。入居者も話したことで発散できている。 ・的確な職員に対するご意見は、内容、経過を書面に残し、改善できるまで経過を追っている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	・来訪時、健康状態や生活に変化があればお知らせしたり、状態によっては電話で報告している。 ・金銭に関しては毎月明細を送付している。 ・家族からも最近どうしてるかと気楽に電話を頂く。 ・誕生会・行事の他、普段の何気ないナイスショットの写真を送っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・玄関内に声の箱を設置。(活用いただけるよう呼びかける) ・直接ご意見をいただける雰囲気を作るよう努力している。 ・家族アンケートを送り、ご意見をいただいた。 ・運営推進委員会にてこの内容について話し合うことができた。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・特別な機会は設けていないが、月に1度の会議の場や、日頃の提案の中から選択し反映するようにしている。 ・職員の声は管理者から運営者に届けている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	・入浴日は職員数を多く配置し、朝・夕の手薄の時間帯には早番・遅番でカバーしている。 ・その他現場の職員が動きやすい役割分担を考えている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	・職員の退職、力量に伴い1・2階のバランスを取るため、必要最小限の異動に限る。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	○	<p>・今年度は多くの職員が外部研修に出られる機会を設け、自己研鑽していく。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		<p>・運営者は職員のストレスを理解し、あまり負担にならない職員配置を考えている。</p> <p>・食事会等皆が集える場を設けストレス緩和に努めている。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		<p>・管理者が勤務状況を報告したり、職場に来てコミュニケーションをとるなかで言葉をかけている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		<p>・入居に際しての不安を理解し、安心感を持てるようにと考えている。入居して環境に慣れるまでは個別に関わる時間をとるとともに、他の入居者との関係や雰囲気にも馴染めるようセッティングしている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		<p>・入居に至るまでの経緯、家族が困っていること、ホームに入居するにあたっての希望やお話を伺い、できるだけ要望に沿うよう努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談に見えた時、他のサービスを受け在宅での生活が可能であればそちらの説明をしていきます。</li> <li>・入居希望であってもホームでは対応の難しい方には他のサービスの説明をします。</li> </ul>		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれホームの雰囲気や相性があると思うので、じっくり時間をかけることは必要です。体験的な一泊入居や日中短時間でも過していただくことも可能です。</li> </ul>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食の準備などは職員の大変さを感じてか「手伝うよ」と協力してくれます。人の状況を理解し、助け合いの関係を築いていると思います。</li> </ul>		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員はそのように理解しています。入居者が不穏の時に付き添い、毎日通院が必要な時は付き添ってくれたり、ご家族の支えを感じます。しかし、ご家族のお考えも千差万別です。</li> </ul>		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に1回、ご家族と一緒にバスで出かける機会を作っている。</li> <li>・親子関係、家族関係も様々なケースがあり、成り立ちがありますが、良好に保てるよう配慮しています。</li> </ul>		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・馴染みの方の訪問はご本人共々快く迎えられるよう配慮し、次回に繋げられるよう努めている。</li> </ul>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	・相手の身体状況等を理解できない方も居り、職員が仲介し円滑に行くよう図っている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	・退所となった方は長期の治療を要したり、死亡された方がほとんどです。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・より良い暮らしが出来るように意向を汲み取るようにしている。困難な場合は身近にいるスタッフに本人の視点に立った意見を出してもらおう等している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・入居時にご本人、ご家族から情報をいただきますが、別居していたご家族からの情報が少ないと言う事はあります。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	・毎日の生活スタイルや能力を把握したなかで、ちょっとした変化を見逃さないように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	・本人、ご家族からの要望を伺い、スタッフからは日々の生活から情報やアイデアを収集しプランに反映するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	・3ヶ月を目処に見直しを行い、それ以前に変化が生じた場合は、随時ユニット内で検討し、現状に即したプランを追加作成している。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	・毎日の出来事を記録、報告で情報を共有しており、実践に反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	・家族状況等を鑑みながら、必要と思われる要望に応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	・避難訓練実施日消防署の立会い指導 ・必要に応じて民生委員の訪問		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	・現在、他のサービスの必要性無く、要望もなかった。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	・支援センターの方には運営推進会議のメンバーとして参加いただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力病院の往診を受けている。</li> <li>・看護師が常駐し健康管理を行なっている。</li> <li>・希望があれば、入居前からのかかりつけ医にかかることも支援している</li> </ul>		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力病院には認知症の理解は得られている。家族の希望や状態に変化がみられた時は、専門医への受診もその都度検討している。</li> </ul>		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師が常駐し入居者の日々の健康管理を行ない、24時間連絡体制を確保し、医療機関と連絡・調整を行なっている。</li> </ul>		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期退院はせかさず、治療を依頼している。病院と管理者、看護師にて連携・相談にて退院できる様に努めている。</li> </ul>		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・治療の対象になくなり、今後終末期に入るであろう方の重度化した場合の方針を、医師を含めご家族と話し合いしている。</li> <li>・ご家族の方針が決まっている方には、早い段階で方向性を決めている。</li> </ul>		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記同様であり、協力医師もホームでできる事、できない事を見極め支援体制にある。</li> </ul>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	・その方のADLや気質などを次に移っても現在の生活に近い援助を受けられるよう情報提供します。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	・排泄時の声かけは他者に聞こえないよう配慮している。 ・日誌報告で支障の生じる事柄は、相手の入居者の名前をイニシャルで報告しているが、徹底されていない。		・日誌報告で支障のあるときは相手の名前をイニシャルで記名するようにしていく。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	・個々に応じた説明や文章にて本人の意向を尋ね納得に努めている。		
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・職員各々が、利用者の趣味・嗜好に合わせた余暇活動の提供をしています。 ・理解力の低下した方には時間をかけながらその方のペースを尊重しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	・日常的に化粧をされて楽しまれている方や、行事の際は皆さん化粧し参加されません。 ・身だしなみでは、汚れない衣類を着てもらうよう心がけています。 ・定期的な理美容の訪問で好みの髪型にされています。ご家族と行きつけの美容室に出かける方もいらっしゃる。		
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	・食事の準備・後片付け等、その方の能力に応じて参加していただいている。 ・楽しみを持っていただけるよう、会話をしながら行なっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	・現在、飲酒・喫煙する方はいない。 ・おやつは入居者が好むものを毎日品を替え提供しています。ご自分で購入したり、定期的にこちらで用意する方も居られる。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	・排泄表を活用し、時間・パターンに合わせ声かけし、オムツに出来るだけ失禁しないよう時間を見て排泄援助しています。 ・出来るところは自分で行なっていたり、不足のところを手助けしている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	・入浴日は決まっているが、その中で希望に合わせた順番を考えている。 ・入浴を楽しんでもらえるよう、入浴時間は本人の意思・希望を大事にし、入浴ならではのスキンシップも行なっています。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	・一人ひとりの体調に合わせて、休憩時間をとっています。 ・長時間臥床する方も居らず、夜間不眠な方もいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	・出来る力の発揮の場面を作り、やりがいを持てたり、役割意識も持ってくれている。 ・気晴らしにはよく散歩に出掛けている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・職員はお金を持つことの大切さを理解している。 ・買い物に出かけれる一部の利用者はお小遣いを持参し、買い物されている。 ・お金を使うことなくとも、持つことで安心されている方もいる。 ・現金を持参されても紛失し、騒動になる方は、紛失しても問題ない額を持参されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	洗濯物干し・買い物・畑仕事・散歩と日常的に外に出るよう支援している。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事の中で普段行けないところに家族と一緒にバスにて出掛けている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	いつでも希望に応じて電話がかけられますが頻度は少なくなってきました。 手紙がきたら読んでお聞かせします。手紙をかかれる方は居りません。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族はいつでも気楽に訪問してくれていると思う。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はない。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	建物の構造上死角にあたり、実際出ても察知できないことがあるため施錠している。ご家族のご理解はいただいている。 居室は基本的に鍵は設置されていないが、人が入る不安のある方だけ設置している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	・居間、台所から入居者の居室の出入りが見渡せるようになっている。 ・長時間自室から出てこないときは訪室し声掛け確認をしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	・包丁や洗剤類は必要以上手の届く場所におかず、保管すべきものは保管し問題はない。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	・ヒヤリハット、事故報告書は会議にて話し合い、再発防止に取り組んでいる。 ・嚙下の悪い方には食べやすい大きさに刻んだり、摂食状態を観察するなどしている。 ・喫煙は所定の喫煙場所がある。	○	・年々身体レベルの低下が現実化している。見守りだけでは及ばない状況も予測し、創意工夫をしていく。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	・急変事は慌てず、手順を踏んだ連絡が出来るかどうかで時間のロスうが防げる。日頃から「こんなときはどうする」と各自がイメージトレーニングなどで自己研鑽も必要。	○	・急変時に備え、管理者・看護師・医療機関・救急車の連絡、手配がスムーズに運ぶよう手順を理解し、万一の場合に備えられるよう伝達していく。 ・応急処置、初期対応の訓練を看護師に講義してもらう。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	・消防署の協力を受けて避難訓練を入居者と共に年2回実施している。消火器、設備点検も行なっている。 ・運営推進会議のメンバーである町内会長さんにも協力依頼しています。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	・身体レベルや意識レベルが低下し、リスクが大きくなった場合は、ご家族に説明し、ご理解をいただくようになっています。その際、その方の自発的な自由な動きを阻害しない事を優先し、ご家族も同様のお考えです。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	・バイタル測定は入浴の時だけです。通常は入居者の表情・顔色・体熱感・動きを見て変化に気付いています。流れ的な測定で安心していないので、観察の目が養われていると思います。情報はその日の勤務者で共有され、申し送りで引き継がれます。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・内服薬の変更は申し送りで周知され、必要時経過観察もおこなっている。処方箋ファイルも手元にあって疑問に思ったときはいつでも閲覧できるようになっている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	・朝の体操・リズム運動を毎日実施し機能低下を防いでいる。 ・歩行訓練・散歩等歩く機会を増やしています。 ・水分表を作成し摂取量を把握している。 ・食事は野菜を多く摂れるメニューになっている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	・週1回訪問歯科の指導を受け、正しく磨けない方には職員が見守り介助している。 ・1人で正しく出来る方には毎食後に歯磨きの声掛けをしている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・水分を好まなかったり、飲用量が少ない方には水分表を作成し、一日の飲用量を把握しています。 ・一人ひとりの摂取量を毎食観察し把握している。 ・不足なく摂取してもらえるよう、食べやすい食事の形態で提供しています。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・マニュアルがある。感染症の時期には、手洗い、掃除の際ドアノブ・蛇口・便器等消毒し、予防に努めている。 ・インフルエンザの予防接種を毎年実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理器具は毎日、漂白剤に浸けたり殺菌し徹底されている。</li> <li>食材は長く保存せず、使用されている。</li> <li>夏場には火を通したものを食べてもらうようにしている。</li> </ul>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物にはホームのプレートを掲げ、中に入るとホームの玄関があり、分りやすい表札が貼ってある。</li> </ul>		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>西日や日光のまぶしさには、カーテンで防いでいる。</li> <li>テレビの音量に配慮している。</li> <li>壁には季節感を取り入れた絵や貼り絵を作品として作り飾っている。</li> </ul>		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>居間にはソファの他、食堂テーブルも配置され気の合う人同士で使用され、廊下奥にもソファを置いていつでも過ごせる空間作りがされている。</li> </ul>		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>居室では馴染みの家具を使用している方もいる。</li> </ul>		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>トイレの臭いはこまめに消臭剤を使用にて配慮されているため、便失禁直後は別として臭いには配慮している</li> <li>室内の温度調節、掃除のときは換気するようにしている。</li> <li>夏は冷房機使用にて心地よく過ごしてもらっている。</li> </ul>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんど掴んでいない</p> <p>2</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある            数日に1回程度ある            たまにある            ほとんどない</p> <p>1</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p> <p>1</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p> <p>2</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p> <p>2</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p> <p>1</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p> <p>1</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族            家族の2 / 3くらい            家族の1 / 3くらい            ほとんどできていない</p> <p>1</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように            数日に1回程度            たまに            ほとんどない</p> <p>3</p>



. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	1
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない	2
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない	2
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない	1

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

台所仕事など、一人ひとりが役割を持ち自分の力でできることで協力してくれる。職員が忙しくしていると「何か手伝うことない、手伝うよ」と声をかけてくれたり、何事も一致団結して助け合う気風がある。また、お部屋で過す習慣がなく、いつも居間に集まり、各々の好きなことをして過しています。